

# COLORS ファッションと色彩： VIKTOR Ⓞ ROLF Ⓞ KCI

会期：2004年8月24日（火）～12月5日（日）[会期中無休] 会場：森美術館 53 階ギャラリー 1・2・3

## ◎ 21 世紀、ファッションはカタチから色彩へ - 私たちを魅了する「色」の力。

色彩は人びとの心をとらえ、時代を映し出し、その色を身にまとう意味を生みだしてきました。ファッションにおける色彩はあらゆる場面を鮮やかに、華やかに、時には厳かに彩ることで、私たちの生活そのものを豊かにしてきたといえます。本展は 17 世紀から現在までの、西洋における「色彩」の歴史的背景や社会的な意味合いを振り返りながら、時代の色と言える黒、青、マルチカラー、赤と黄、白をテーマカラーにして色彩の魅力を読み解いてゆくものです。比較的最近までファッションで最も重要視されたのは特徴のあるシルエット、ラインと呼ばれる衣服のフォルム（かたち）でした。しかし今日では衣服の「カタチ」ではなく「色」の存在が際立ち始めています。森美術館で体感していただけるのは、多くの衣装たちがもつ時代を超えた「色」です。これまで取り上げられることがなかった、「色彩」と「ファッション」の関係に焦点をあてることで、私たちを魅了し続けてくれる色彩の根源的な魅力、楽しさ、そして力強さをあらためて実感していただけることでしょう。

## ◎アートとファッションの境界を揺るがすデザイナーユニット、ヴィクターⓄロルフの5つの「色」

この試みをゲスト・キュレーターとして支えるのが、オランダ出身のファッション・デザイナー、ヴィクターⓄロルフ（VIKTOR Ⓞ ROLF）の2人組です。

**PRESS RELEASE**  
プレスリリース

「ブラックホール」コレクション（2001年秋冬）では瞳以外、衣装も顔も全て黒づくめのモデルを登場させ、「ブルースクリーン」コレクション（2002年秋冬）ではビデオ編集で使われるクロマキー処理を用いるなど、色に特化した話題のコレクションを発表し続けています。本展では展示コンセプトを担当、会場はユニークで斬新な色彩世界に仕上がっています。

## ◎5つのセクションに彩られたファッションの変遷

京都服飾文化研究財団（KCI）の約 1 万 1 千点の収蔵品から選りすぐられた 17 世紀から現代までの衣装 87 点を、ヴィクターⓄロルフの作品とコレクション・ショーの映像を軸にしなが、「黒」「マルチカラー」「青」「赤／黄」「白」の5つのセクションに展示します。

展覧会は移り変わる流行色を思わせる、ヴィクターⓄロルフの 2003 年秋冬の作品から始まります。

**「黒」** すべての色彩を取り込む黒は人びとを恐れさせると同時に魅了してやまない色です。**厳格さ、エレガンス、反抗**など、黒のイメージはファッションに繰り返し登場しています。19 世紀の女性の乗馬服、1920 年代のシャネルのプチット・ロブ・ノワール、パンクをとりあげた川久保玲のスーツ他 21 点を展示します。

**「マルチカラー」** 19 世紀後半の化学染料の発見、染色技術や色彩論の発達で多様な色彩の組み合わせが実現します。**18 世紀のマルチカラー**の豪華なドレス、

**1960年代のポップ・アートやサイケの影響を受けたペーパードレスやサンローランのプリントドレス、コーディネートの可能性を示すジョン・ガリアーノ（クリスチャン ディオール）の作品など 17 点を展示します。**

**「青」** 世代や地域を越えて好まれた青。高価なタイセイの**パステル・ブルー**、化学染料が生んだ**モーヴ（ふじ）色**、庶民も好んだ**インディゴブルー**など、高貴な青から日常の青まで 16 点が登場。「ファッションはファンタジーや夢」というヴィクター®ロルフの想いを伝える彼らのコレクション映像が「青」のギャラリーを際立たせます。

**「赤／黄」** 人びとが熱狂し、奔走した「色」の歴史が蘇ります。古来から人々が追い求めた色、赤。トルコや中南米まで、西洋の人びとは赤を求めて交易を繰り返しました。一方、中世まで西洋で異端の色だった黄色は、18 世紀に流行した中国趣味により、一躍ファッションナブルな色となります。赤や黄の染料と共に輸入された東洋や新大陸の文化が、西洋の色彩感に影響を与えたのです。「赤／黄」には 18 世紀から 19 世紀のドレスを中心に、合計 18 点が登場します。

**「白」** 純潔性を表す白。それはこれから始まる新世紀への期待の現れだったのかもしれませんが。ここでは 19 世紀初頭の古代ギリシア・ローマ趣味がうかがえるモスリンのエンパイア・スタイルのドレス、20 世紀初頭のシャネルのドレス、尼僧服から影響を受けたヴィオネのウエディングドレス、さらには 21 世紀の幕開けに登場した川久保玲の作品のほか 14 点がフィナーレを飾ります。

#### ヴィクター®ロルフ 略歴

ヴィクター・ホルスティン（VIKTOR HORSTING, 1969 年 イスラエル生）とロルフ・スノーレン（ROLF SNOEREN, 1969 年 オランダ生）の 2 人組。1993 年ブランド設立、本拠地をオランダにおく。1998 年パリにてオートク

チュール、2000 年よりブレタ・ボルテ発表。アートとファッションの境界を自由に往来するデザインは知的かつオリジナリティーにあふれる。2001 年より色彩に特化したコレクションを開始。21 世紀のファッションの可能性を提示する彼らの活躍はめざましく、パリ国立衣装テキスタイル美術館（ルーブル宮）で回顧展が 2003 年に開催されたばかり。

#### 京都服飾文化研究財団（KCI）

1978 年、近世以降の西欧の衣装を収集、保存、研究、公開する機関として文部省の認可を受けて設立。その収蔵品を、「モードのジャポニスム」（94 年 京都、パリ、東京、ロサンゼルス、ニューヨーク、ニュージーランドに巡回）、「身体」の夢」（99 年 京都国立近代美術館、東京都現代美術館）などの「美術館で見る衣装展」によって公開してきた。2002 年には「ファッション：18 世紀から現代まで京都服飾文化研究財団コレクション」をタッチェン社から出版。10 カ国語に翻訳され、8 万部を突破した。「COLORS ファッションと色彩：VIKTOR®ROLF®KCI」の監修は京都服飾文化研究財団チーフ・キュレーター 深井晃子。

#### 出品デザイナー

アズティン・アラリア、クリストバル・バレンシアガ、ガブリエル（ココ）シャネル、クリスチャン ディオール、ドルチェ&ガッバーナ、マリアノ・フォルチュニ、ジョン・ガリアーノ（クリスチャン ディオール）、ジャン＝ポール・ゴルチエ、川久保 玲（コム・デ・ギャルソン）、三宅一生、ロペール・ピゲ、エミリオ・プッチ、イヴ・サンローラン、エルザ・スカッパレリ、ヴィクター®ロルフ、マドレーヌ・ヴィオネ、渡辺淳弥、ヴィヴィアン・ウエストウッド、山本耀司（姓のアルファベット順）

開館時間：月・水・木 10:00 - 22:00 | 金～日・祝前日 10:00 - 24:00  
火 10:00 - 17:00（いずれも入館は閉館時間の 30 分前まで）会期中無休  
\*なお、特別なイベント開催により、開館時間を変更する場合がございます。  
入館料 [円]: 一般 1,500、学生（高校・大学生）1,000、子供（4 歳以上・中学生）500 \*表示料に消費税込  
\*本展のチケットで小沢剛展（2004 年 8 月 24 日 - 12 月 5 日）、展望台 東京シティビューにもご入館いただけます。  
お問い合わせ：TEL03-5777-8600（ハローダイヤル）

主催：森美術館、京都服飾文化研究財団  
企画制作協力：京都国立近代美術館  
後援：オランダ王国大使館、J-WAVE  
特別協力：株式会社ワコール  
協力：日本航空、株式会社七彩、吉忠マネキン株式会社、リュイナル／宝酒造株式会社

「COLORS ファッションと色彩：VIKTOR®ROLF®KCI」は、京都服飾文化研究財団（KCI）との共同開催で、京都国立近代美術館（会期：2004 年 4 月 29 日 - 6 月 20 日）に続き、森美術館で開催いたします。

#### 〈カタログ〉

本展のカタログを展覧会に際して発売いたします。  
サイズ：B5 判 頁数：300 頁 税込価格：2,400 円

お問い合わせ

広報部 担当：鈴木、高橋、三浦

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum

Web: www.mori.art.museum 106-6150 東京都港区六本木 6-10-1

六本木ヒルズ森タワー 森美術館

## PRESS RELEASE プレスリリース

# 小沢剛：同時に答えろ YES と NO!

会期：2004年8月24日(火)ー12月5日(日) [会期中無休] 会場：森美術館 53 階ギャラリー 4・5・6

## 牛乳箱サイズの小宇宙が世界をひとつに繋ぐ！ 1990年代以降の日本を代表する現代アーティスト、小沢剛の世界初個展 ユーモアに包まれた批判的精神と「日本」への眼差し

1960年代生まれのアーティストがアートシーンに登場しはじめた90年代前半、小沢は日本の貸し画廊の制度をユーモラスに批判した《なすび画廊》を展開。牛乳箱をギャラリー空間に転換し、さまざまなアーティストによる作品展示を牛乳箱空間で行い、グリラ的に街中の電信柱などに展示しました。アーティストにとって最も重要とされるオリジナリティを自ら放棄し、他者の意志が介入したプロセス全体を自らの芸術としたのです。

1990年代以降の多文化時代、小沢剛はさまざまな国際展へ招待され、牛乳箱のアートも《新なすび画廊》として世界各地でプロジェクトを展開。続く「相談芸術」のシリーズでの、観客の意思によって変化していくというコンセプトも、アーティストの存在を希薄にしているようでいて、逆に小沢剛を日本を代表する現代アーティストとして位置付けることとなりました。

小沢のユーモアに包まれた批判的精神は、2001年以降の《ベジタブル・ウェポン》シリーズでも継承されています。世界各地の料理に使われる食材で銃を形作り、戦闘のイメージとは距離を置いた現地の女性をモデルに写真を撮影。その後、その食材で実際に料理を振舞うというもの。戦争の絶えない新世紀に、アートができる小さなプロテストといえます。また、鍋を囲んだパーソナルな関係を基準とするこのプロジェクトは、世界各地で継続されることで、人々をひとつに繋げるグローバルなスケールへと発展しています。

一方、小沢剛の作品には、「昭和期の日本」を感じさ

せるものも少なくありません。70年代の高度経済成長期に育った世代が経験した社会環境の変化や、そこで無抵抗に失ってきたものへのノスタルジーが随所に見られますが、それは「日本」というアイコンを商品化しようとする時代への迎合的な姿勢ではなく、民俗学的な視点も含めた日本人による「日本文化」の再検証です。このことは、グローバル時代におけるローカルな文化の再検証、国際的なアートシーンにおける日本現代美術の新しい文脈化の試みでもあります。

美術館レベルでは小沢剛の世界初個展となる本展は、牛乳箱に始まった小沢の小宇宙が、ひとつひとつのパーソナルな関係を繋げていくことでグローバルに発展してきたスケール感を、小沢の初期作品、主要作品と最新作で構成するものです。

本展はまた、森美術館の目的のひとつである日本およびアジアのアーティスト活動の奨励を具体化するものでもあり、時代を担う中堅のアーティストを「個展」形式で網羅的に紹介する展覧会シリーズの第一回目となります。



小沢剛（おざわ・つよし） 略歴

撮影：R.HAGENBERG

1965年東京生まれ。91年東京藝術大学大学院美術研究科壁画専攻修了。96年-97年 アジアン・カルチュラル・カウンシルの招聘によりニューヨークに滞在。主な参加展覧会に、「シティーズ・オン・ザ・ムーブ」(97年、ウィーン、ゼツェッション館ほか)、「横浜トリエンナーレ2001」(01年、パシフィコ横浜ほか)、「アンダーコンストラクション」(02年、東京オペラシティアートギャラリーほか)。昨年は第50回ヴェネチア・ビエンナーレにも参加するなど、世界各地で活躍中。昭和40年生まれのアртиストで構成される「昭和40年会」のメンバーの一人。

PRESS RELEASE  
プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

## 主な出展作品

### なすび画廊 (1993-95) / 新なすび画廊 (1997-)

牛乳箱をギャラリーに見立て、アーティストにその中で作品を展示してもらう「世界最小の画廊」として始まった《なすび画廊》(参加アーティスト: 草間彌生、中村政人、八谷和彦、福田美蘭、宮島達男ほか)。一旦休止後、1997年に再開され、ウィーン、ポルドー、ロンドン、コペンハーゲンなど世界各地で《新なすび画廊》として展開されました。

\*その他、出品作品《なすび新聞 創刊号》—《なすび新聞 22号 なみだの休刊号》、《なすび画廊ブランドローイング》[1993] など

### 讃岐醤油画資料館 (1999) / 醤油画資料館模型 (1999)

日本人の生活に密着した醤油による、「醤油画」という架空の絵画様式を想定し、古代から現代に至るさまざまな「醤油画」を集めています。世界に3館あるうち《讃岐醤油画資料館》は、香川県坂出市の老舗醤油会社、鎌田醤油のものです。

### グローブ・ジャングル (2000)

中退した幼稚園を訪れたとき、「2回泣きそうになった」という経験から、懐かしのグローブ・ジャングルに、幼稚園の近所の風景を撮影したプリクラ写真を貼った立体作品。脇に添えられたドローイングも、幼い頃の風景を思い出させます。

### ワンマングループショウ (1997-)

前衛芸術家、岡本太郎の亡くなった日に、隕石が落ち、岡本太郎から八太郎までの子供たちが、将来アーティストになる運命を持って生まれた。そんなストーリーに基づいた、「ひとりによるグループ展」シリーズで、これまで一太郎から六太郎までが登場。本展ではシリーズ最新作も併せて発表されます。

\*その他、出品作品《ワンマングループショウ2—岡本四太郎「コロボックルについて知っていること」》(2004)、《ワンマングループショウ2—岡本六太郎「できるかな 2004」》(2004) など

### 写楽ワーク (1996-)

役者絵で有名な江戸時代の謎の浮世絵師、東洲斎写楽。彼の役者絵のポストカードの裏に、観客が自分の好きな人の似顔絵を描く。本作は96年に始まり、世界各国40カ所以上を巡回中。世界中の人たちの「好きな人の似顔絵」が増え続けています。本展でも観客参加型のプロジェクトとなります。

### トンチキ・ビューハウス (2004)

東京が見下ろせる絶景のタタミ部屋。ジャングルジムあり、お土産屋さんあり、そして2001年に行われた《トンチキハウス》の記録もご覧いただけます。お好きな楽しみ方で、堪能していただける新作、《トンチキ・ビューハウス》です。

### 地藏建立 (1988-)

88年に始められた小沢のライフワーク的作品。日本、韓国、中国、ロシアなど、小沢が各地を旅行した際に、手製の小さな地藏をその風景と一緒に収めた写真。数百枚の布団を使った山をのぼった先で、青みがかったモノクロ写真と対面することで、ノスタルジックな感覚が刺激されます。

\*作品《たそがれ地藏建立》(2004)、《地藏建立》—ベジャワール[パキスタン](1988)、アテネ[ギリシャ](1988)、天安門広場[中国](1988)、ソフィア[ブルガリア](1994)、天橋立[京都府](1995)、バルセロナ[スペイン](1995) など

### アートサッカー (2002-)

韓国と日本のアーティストが、サッカーボールを土台に順番に作品をつくりながら、ボールを交換した《2002 アートサッカー・ワールドカップ 韓国 VS 日本戦》。記録映像と成果品のボールをご覧いただけます。また、今年7月にキックオフした《2004 アートサッカー・ワールドカップ スウェーデン VS 日本戦》の模様を、録画中継。

### ベジタブル・ウェポン (2001-)

各地で女性モデルを選び、彼女が選んだ食材で銃の形を作り、それを構えたポートレートを撮影したシリーズ。その後食材は調理され、食されます。東京、韓国、中国、ブラジル、トルコなど世界11カ国で行ってきたプロジェクトです。食卓を囲んだ明るいコミュニケーションを通して、世界の文化をひとつに繋げています。

\*作品《さんまのつみれ鍋—東京》(2001)、《キムチチゲ—ソウル》(2001)、《羊肉火鍋—北京》(2002)、《パクワン—スーパーストーン、タイ》(2004)、《ワーテルゾーイ(鶏肉のクリーム煮)—リール、フランス》(2004) など

開館時間：月・水・木 10:00 - 22:00 | 金・日・祝前日 10:00 - 24:00  
火 10:00 - 17:00 (いずれも入館は閉館時間の30分前まで) 会期中無休  
\*なお、特別なイベント開催により、開館時間を変更する場合がございます。  
入館料 [円]: 一般 1,500、学生(高校・大学生) 1,000、子供(4歳以上—中学生) 500 \*表示料金に消費税込  
\*本展のチケットで COLORS ファッションと色彩展(2004年8月24日—12月5日)、展望台 東京シティビューにもご入館いただけます。  
お問い合わせ: TEL03-5777-8600 (ハローダイヤル)

主催: 森美術館 後援: J-WAVE  
協力: ディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社、有限会社東京カラー工芸社、富士ゼロックス株式会社 ART BY XEROX、株式会社堀内カラー、リュイナル/宝酒造株式会社

#### 〈カタログ〉

本展のカタログを展覧会に際して発売予定です。  
サイズ: B5変形(240mm×190mm) 頁数: 180頁(内カラー88頁)  
税込価格: 2,310円(なすび画廊) 手作りペーパーキット付き

#### お問い合わせ

広報部 担当: 鈴木、三浦、高橋  
Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum  
Web: www.mori.art.museum 106-6150 東京都港区六本木 6-10-1  
六本木ヒルズ森タワー 森美術館

## PRESS RELEASE プレスリリース

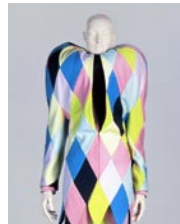
## ■プレス画像は森美術館ウェブサイトよりダウンロードしていただけます。

最新のプレス画像をウェブサイトから入手できる便利なダウンロードシステムをご利用ください。  
展覧会別の全プレス画像がご覧いただけるほか、画像キャプションもこちらでご確認いただけます。

### 「COLORS ファッションと色彩：VIKTOR®ROLF®KCI」 画像例 \*その他多数をご用意しております。



ヴィクター®ロルフ  
ジャケット 2003年 秋冬  
所蔵：京都服飾文化研究財団  
写真：畠山崇  
写真提供：京都服飾文化研究財団



ヴィクター®ロルフ  
アルルカン 1998年 秋冬  
所蔵：Groninger Museum  
写真：Peter Tahl  
写真提供：Groninger Museum

### 「小沢剛：同時に答えるYESとNO!」 画像例 \*その他多数をご用意しております。



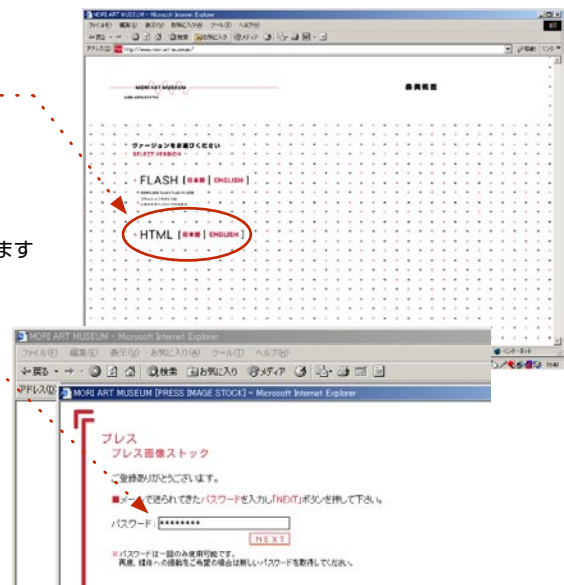
小沢剛  
《新なすび画廊—小沢剛「種」》  
2003  
33 × 20.6 × 14.2 cm  
牛乳箱、種、木  
作家蔵  
写真提供：オオタファインアーツ、  
東京



小沢剛  
《ベジタブル・ウェポン—さんまのつみれ鍋  
／東京》  
2001  
113 × 156 cm  
ラムダプリント  
個人蔵、東京  
写真提供：オオタファインアーツ、東京

### 画像ダウンロードの手順

- [1] 森美術館ウェブサイト [WWW.MORI.ART.MUSEUM](http://WWW.MORI.ART.MUSEUM) へアクセス
- [2] HTML バージョン [日本語] をクリック (FLASH からアクセス可)
- [3] CONTENTS [ +プレス ] をクリック
- [4] [ +プレス用画像ストック ] をクリック
- [5] ご申請者のメールアドレスを入力してください
- [6] 画像ダウンロードに必要なパスワードが [5] のメールアドレスに送信されます
- [7] メールで取得したパスワードを入力欄に記入
- [8] 必要事項記入フォームにお名前、媒体名等を記入後  
[送信] ボタンをクリック
- [9] 各カテゴリからご希望の [ 展覧会名 ] を選択
- [10] 該当のプレス画像が表示されます
- [11] ダウンロードしたい画像横の [ダウンロード] ボタンをクリックすれば大きく表示されますので、その状態で [ファイルメニュー] から  
[名前を付けて保存 / 別名で保存] を選択。  
お使いのフォルダ等 [保存する場所] を選び、  
[保存] ボタンをクリックすると画像保存が完了します
- [12] 画像横のキャプションの控えをとる (コピーする) ことをお忘れなく



## PRESS RELEASE プレスリリース

# アーキラボ：建築、都市、アートの新たな実験

会期：2004年12月21日（火）－2005年3月13日（日） 会場：森美術館 53階

## 1960年代から最新までの、建築の旅。 より豊かな都市と建築、そして人間の生活のあり方を探る。

「アーキラボ：建築、都市、アートの新たな実験」展は、膨大な建築資料のコレクションを持つフランス、オルレアン市のサントル地域現代芸術振興基金（以下 **FRAC CENTRE**）と森美術館の共同企画展です。

FRAC CENTRE のコレクションに、ポンピドゥー・センターの建築関係コレクションも合わせて紹介する本展は、建築家、アーティスト 80 名以上の模型、素描、映像などから成る約 400 点の作品を、建築史の流れに沿った 4 つのセクションで構成しています。時間軸に沿う形で各セクションをめぐることで、観客の皆さんには 1960 年代から最新の建築までの旅を体験していただけます。本展は建築、都市、アートの未来を探るべく、1960 年代から世界の建築において行われた主要な実験の歴史的軌跡をたどり、さらにこれから生じる新たな革命の行方を提示します。

建築は私たちが「住むための機械」であり、時代精神と哲学を反映する表現であり、また人間が生きる形をどのように捉えたかを物語る証言でもあるでしょう。1960 年代以降の現代建築史を鳥瞰しながらも、最終的に現在考えられる最も新しい建築の視点と可能性を紹介することで、本展はより豊かな都市と建築、そして人間の生活のあり方を探るものとなります。「アート&ライフ」をテーマに、現代美術やデザイン、ファッション、建築など様々なアートを紹介し、現在と未来への視点を発信する森美術館において、本展は建築をテーマにした最初の展覧会となります。建築表現が私たちの生活により身近になり、新しい時代の新しい建築を考える契機となることを期待するものです。

### 4部構成

#### I. 脈動する都市—実験室としての身体

60 年代初頭、人間の細胞膜のように有機的なものとして捉えた建築史上の実験的建築が生み出されました。それらはコープ・ヒンメルブラウの「VILLA ROSA/ヴィラ・ローザ」やアーキグラムの建築アイデアに象徴されています。こうした実験建築を通して現代建築の源流を検証します。

#### II. 終わりなき都市—膨張する環境

60 年代、世界的スケールで展開した「メガストラクチャー」建築論を、ヨナフリードマン、磯崎新、丹下健三や日本のメタポリスト（黒川紀章、菊竹清訓）などの建築により検証。60 年代の代表的な建築家、クロード・バラン&ポール・ヴィリリオの二人によって生み出された「傾いた都市論」（都市は元からある土地を持ち上げて作られたという意味で傾いた存在であり、交通という「傾斜角度」が住居地域を決定し、建築はこうした都市の強壮剤として働くという理論）を紹介しします。

#### III. 解体される都市—新しいシンタクスの創造

60 年代のアヴァンギャルド達によって高揚されたグリッドのモチーフ＝イタリアのスーパースタジオによるヒストグラムは、3 次元的グリッドで際限なく拡張し、ヒエラルキーの無い構造の中に建築、そこに住む人間、そして都市をも吸収してしまうものでした。83 年ベルナルド・ツブミはコンビネーションの原理に基づき「狂気」が動く横糸としてラ・ヴィレット公園をデザイン、レム・コールハースによる 70 年代初期プロジェクトも、グリッドを含むラディカルな実験に影響を受けていました。そして 80 年代後半からはダニエル・リベスキンド、ザハ・ハデッド、フランク・ゲイリーが加わり、脱構築と呼ばれる建築が続きます。

#### IV. 文脈化する都市—コンピュータがもたらす共生

コンピュータの最新技術が可能にしたバーチャルな建築デザイン、最新のテクノロジーによる建築素材が新しい世代の建築家たちの新たな実験／造形を可能にし始めています。ポンピドゥー・センター「ARCHITECTURES NON STANDARD / ノン・スタンダード」展（04 年 3 月末まで）でも紹介された NOX、ASYMPTOTE、KOL/MAC STUDIO や ROCHE & SIE、そして日本の建築家の試みを紹介します。

### FRAC CENTRE

1991 年より「ユートピアと実験」をテーマに、1950 年代から現在までの世界中の貴重な建築模型及び資料を収集。また毎年、多数の建築関係者を世界中から招聘し「ARCHILAB」の名称で、建築に関する国際会議を開催。所蔵する建築には、日本人の作品も多数。

キュレーター：マリー＝アンジュ・ブレイエ（サントル地域現代芸術振興基金コレクション・ディレクター）、フレデリック・ミゲロー（ポンピドゥー・センター建築・デザイン部門チーフ・キュレーター）、南條 史生（森美術館副館長） 会場構成 隈 研吾

開館時間：月・水・木 10:00 - 22:00 | 金～日・祝前日 10:00 - 24:00  
火 10:00 - 17:00（いずれも入館は閉館時間の 30 分前まで） 会期中無休  
入館料（円）：一般 1,500、学生（高校・大学生）1,000、子供（4 歳以上～中学生）500 \* 展望台 東京シテビュー入館料含 \* 表示料金に消費税込  
お問い合わせ：TEL03-5777-8600（ハローダイヤル）

主催：森美術館、FRAC CENTRE（サントル地域現代芸術振興基金）、読売新聞社  
企画：森美術館、FRAC CENTRE（サントル地域現代芸術振興基金）  
助成：東京日仏学院、ARAFJ（注1）、フランス外務省フランス芸術文化活動協会（AFAA）（注2）、フランス大使館 協賛：鹿島建設株式会社 他  
協力：日本航空株式会社、リュイナール/宝酒造株式会社  
注1：ARAF/ASSOCIATION POUR LA RÉALISATION DE L' ANNÉE DE LA FRANCE AU JAPON 注2：ASSOCIATION FRANÇAISE D' ACTION ARTISTIQUE

（カタログ）本展のカタログ日英版を展覧会に際して発売予定です。

### お問い合わせ

広報部 担当：鈴木、高橋、三浦  
Tel: 03-6406-6111 | Fax: 03-6406-9351 | E-mail: pr@mori.art.museum  
Web: www.mori.art.museum 106-6150 東京都港区六本木 6-10-1  
六本木ヒルズ森タワー 森美術館

## PRESS RELEASE プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# 今後の展覧会ハイライト

## [2004年～2005年]

### 1. ジョージ ジェンセン の100年展： スカンジナビアン・ジュエリーとシルバーウエア

会期：2004年10月30日～11月21日 会場：森美術館

北欧を代表するデンマークの宝飾ブランド、ジョージ ジェンセンの創設100周年を記念した展覧会。1世紀にわたるジョージ ジェンセンの代表作を映画「愛と精霊の家」で知られる国際的映画監督ピレ・アウグストのプロデュースにより5つの季節（夏・秋・冬・早春・春）で構成、展覧します。本展覧会はデンマーク国立美術館で開催後、世界各国に巡回。日本では森美術館で開催いたします。

### 2. アートが紡ぐ物語（仮題）

会期：2005年3月～6月 会場：森美術館

現代アートにおける物語性に着目し、ストーリーを感じさせる絵画、写真、ビデオなど多彩な作品を紹介します。現実と非現実の間をさまよう不可思議なイメージの奥にひそむ様々なテーマ・家族、人種、ジェンダーなど・は、今を生きている私たちが対面している問題でもあります。アーティストが「語る」物語と今日的テーマとの関係を探ります。

### 3. エレガンス・オブ・サイレンス（仮題）

会期：2005年春 会場：森美術館

東アジア（中国・台湾・韓国・日本）の古来の美術や哲学が現代のアーティストにどう受け継がれ、また革新されているかに着目する展覧会。4カ国のアーティストによる絵画や彫刻、インスタレーションなど多様な表現方法の作品を通し、国々のアイデンティティや文化の違い、類似性を提示します。本展覧会は森美術館キュレーター、金善姫が担当します。

### 4. 中国東西交流の国宝展（仮題）

会期：2005年夏 会場：森美術館

漢代（紀元前202～220）から唐代（618～907）までの1千年以上にわたる中国の歴史を「時代の軸」と東西交流と南北交流という地域間の「交流の軸」という2つの軸で構成する、かつてない観点からの展覧会となります。中国の文物のみならず、漢滅亡以降中国に渡った外来の文物、初期中国仏教美術など、多数の世界初公開、国宝級文物が中国全土に渡る各博物館より出品されます。

### 5. 杉本博司展（仮題）

会期：2005年秋 会場：森美術館

ハーシュホーン美術館&彫刻庭園（米国）との共同企画です。

## [2006年～]

### ・AFRICA REMIX：現代アフリカ美術とその未来（仮題）

過去10年間のアフリカ美術を、アート、映画、文学、音楽、建築、デザインを網羅して構成、展覧します。著名なアーティストから若手アーティストまで、アフリカ国内のみならず海外で活躍しているアフリカ人アーティストを紹介。本展覧会はデュッセルドルフ美術館、パリ国立近代美術館、ハイワード・ギャラリーを巡回した後、東京で開催されます。ゲスト・キュレーターにサイモン・ジャミを迎えます。

### ・ベルリン・東京展

ベルリンを中心としたドイツと日本の関係に焦点をあてながら、両国の20世紀前半から現在までの文化・芸術の影響関係を探ります。日本におけるドイツ年の参加企画として、絵画、彫刻、写真、建築、商業芸術などを総合的に紹介するほか、日本・ドイツの現代美術作家を相互に紹介。本展は森美術館で開催後、ベルリン・新ナショナルギャラリーに巡回します。

### ・ビル・ヴィオラ回顧展（仮題）

### ・ホット & スパイシー：アジアのクリエイターの今を描く

アジアのアート & カルチャーをリアルタイムで紹介。さまざまな地域から次々と湧き出る最もダイナミックでエネルギーあふれる芸術・文化をアート、デザイン、ファッション、音楽、映画、ニューメディア、若者文化を網羅して紹介します。本展覧会には日本、韓国、中国、イスラエル、トルコ、そして他のアジア諸国の作品が展覧されます。

### ・路上の詩：フランス近代写真の軌跡

写真史の上でも魅惑的な時代である1920年代半ば～1960年代後半の作品を中心に、当時からメディアに影響を与えてきた人道主義のフランス人写真家たちの作品を検証します。この重要な時代を文化的、歴史的背景を考慮しつつ、300点以上の傑出した作品で構成します。ゲスト・キュレーターにピーター・ハミルトンを迎えます。

## PRESS RELEASE

### プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

## ミュージアムショップ オリジナルグッズ・展覧会関連グッズ

**COLORS ファッションと色彩：VIKTOR®ROLF®KCI 小沢剛：同時に答えるYESとNO！**

森アーツセンター ミュージアムショップでは、「COLORS ファッションと色彩展」「小沢剛展」に関連した、森美術館オリジナル商品、展覧会関連商品をご用意しています。カタログからTシャツまで豊富なラインナップで下記ショップにて販売いたします。

**「COLORS ファッションと色彩：VIKTOR®ROLF®KCI」**



カタログ



ポストカード

**「小沢剛：同時に答えるYESとNO!」**



地藏ワッペン



なすびワッペン



手ぬぐい



地藏饅頭



アートサッカーワッペン



Tシャツ

\*カタログの他、グッズも各種取り揃えております。

**ショップ インフォメーション MAM SHOP 森タワー52F**

展覧会会期中 営業時間：月～木 9：00～22：00 | 金～日・祝前日 9：00～24：00 Tel：03-6406-6270 Web：www.macmuseumshop.com  
E-mail：shop@macmuseumshop.com



## パブリックプログラム パブリックアートの本 「アート・デザイン・都市」(2冊)を刊行

六本木ヒルズ内のパブリックアートとストリートファニチャー、建築やランドスケープまで含めたデザイン的観点から文化都市六本木ヒルズを紹介する「アート・デザイン・都市 1：六本木ヒルズ パブリックアートの全貌」。2003年5月、六本木ヒルズ完成を記念したシンポジウムで収録された、パブリックアートプロジェクトに関わった18人の肉声を紹介する「アート・デザイン・都市 2 六本木ヒルズ クリエーター 18人の提案」。この2冊から、アーテリジェントシティ、六本木ヒルズの新たな姿を見つけて出していただけます。

**「アート・デザイン・都市 1：  
六本木ヒルズ パブリックアートの全貌」**

監修、編集、制作：森美術館 編集ディレクション：森田伸子  
写真：浅川敏 ブックデザイン：廣村正彰 + 木住野英彰  
発売：株式会社六耀社 サイズ：B5判 頁数176頁【内カラー104頁】  
発行部数：3,500部 刊行予定：2004年9月初旬 予価：3,360円(税込)

**「アート・デザイン・都市 2：  
六本木ヒルズ クリエーター 18人の提案」**

監修、編集、制作：森美術館 編集ディレクション：森田伸子  
ブックデザイン：廣村正彰 + 木住野英彰 発売：株式会社六耀社  
サイズ：B5判 頁数176頁 発行部数：2,000部  
刊行予定：2004年9月初旬 予価：2,940円(税込)

\*販売は森アーツセンター ミュージアムショップ Web：www.macmuseumshop.com、または一般書店でもご購入いただけます。  
\*上記の本に関するお問い合わせは：森美術館 学芸部パブリックプログラム Tel：03-6406-6101(直通)

**PRESS RELEASE  
プレスリリース**

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER